

議 長	事務局長	次 長	係 長	係 員
		出 張		

復 命 書

令和5年11月28日

三沢市議会議長 堀 光 雄 殿

産業建設常任委員会

委員 長 小比類巻 孝幸 

副委員 長 春 日 洋 子 

委 員 久保田 隆 二 

委 員 瀬 崎 雅 弘 

委 員 西 村 盛 男 

委 員 堤 喜一郎 

随行者（議会事務局）

主 査 星 佳奈美 

令和5年10月30日から11月1日まで、富山県氷見市及び石川県津幡町において、当委員会の行政視察を実施したので、その概要について下記のとおり復命いたします。

記

視察概要－1【富山県氷見市】

- 1 日 時：令和5年10月31日（火）9時30分～11時18分
- 2 場 所：氷見市役所
- 3 応 対 者：氷見市議会 積良議長
氷見市議会局 洲崎氏 ほか
氷見市役所 商工振興課 角課長
観光交流課 杉本課長
- 4 視察項目：(1) ブランド支援事業費補助金について
(2) 氷見市新商品開発・販路開拓支援事業補助金について
(3) 観光振興に係る取組について

5 視察概要：

(1) ブランド支援事業費補助金について

○事業概要

氷見市の地域ブランドづくりに取り組む市内の事業者等に、ブランドの保護や活用、販路開拓、PRに係る経費の一部を助成するもの。

ブランド確立事業として、ロゴマークの作成等に係る対象費用の3分の1以内を上限30万円まで助成する。

出向宣伝販売事業として県外イベントに参加する際の対象費用の2分の1以内を1回の上限5万円まで助成する。

○実施状況

主な補助実績は県外で開催されるイベントに参加するための出店料、旅費に対する補助。明確な結果が表れておらず、イベント時の補助のみでなく、継続される取引における活用の推進が必要。

○質疑応答

Q：事業費はどれくらいか？

A：2つの事業を合わせて4,500万円ほど。

(2) 氷見市新商品開発・販路開拓支援事業補助金について

○事業概要

ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた売上拡大に取り組む市内事業者が、氷見商工会議所や Himi-Biz（氷見市ビジネスサポートセンター）の支援を受けながら新たな商品開発や販売促進事業を行う際の費用を補助する。

○実施状況

利用しやすい補助メニューにしたことにより利用者は増加している。

商工会議所または Himi-Biz の支援が必須となっていることにより、開発

後も取組の様子を確認できる体制となっている。

○質疑応答

Q：Himi-Bizについての詳細は？予算、どのような人に携わってもらっているのか？

A：財源は国の地方再生推進交付金を活用している。

市内には専門家がないため、給料を1,200万円程度に設定し全国公募を行い、数百人の応募があった。高いと感じるかもしれないが専門業界では安い金額であると考えている。WEB、写真、マーケティング等それぞれの分野の専門家人材を活用し、事業者をサポートしている。

(3) 観光振興に係る取組について

○事業概要

市の観光の目指すべき将来像など次世代を見据えた観光施策の方向やその実現に向けた取組を示した「第1期氷見市観光振興ビジョン」の取組等を今後も切れ目なく推進し、大きく落ち込んだ観光需要の回復、ウィズコロナにおける新しい観光スタイルへの対応等、これまで以上に戦略的に取り組むことを目的に、「第2期氷見市観光振興ビジョン」を策定した。

○質疑応答

Q：観光のメインは？

A：やはり食事。公共交通機関を乗り換えなければ氷見市まで来られないことが弱点、直通化できないかとは思っている。ターゲットとして関東だけではなく関西圏にも力を入れなければならない。石川県、福井県と3県合同で大阪にアンテナショップを出すことになっており、併せてプロモーションをしていきたい。

7 視察の様子と議場での集合写真（氷見市役所）



視察概要－２【石川県津幡町】

1 日 時：令和５年１０月３１日（水）１４時３０分～１５時４７分

2 場 所：津幡町役場

3 応 対 者：津幡町議会 八十嶋議長
津幡町議会事務局 山本局長 ほか
津幡町役場産業振興課 奥村課長
加藤係長

4 視察項目：(1) 観光ボランティアガイド「つばたふるさと探偵団」について
て
(2) 津幡ブランドについて
(3) つばた産推奨店について

5 視察概要：

(1) 観光ボランティアガイド「つばたふるさと探偵団」について

○事業概要

津幡町を訪れる観光客及び町民に対し、ボランティアによる観光案内を行うとともに、会員相互の親睦を図り、津幡町の観光発展に寄与するもの。

○実施状況

月１回の座学研修会や県内・県外研修や他自治体との交流会を実施。令和５年１２月から試験運行するＡＩオンデマンドバスと町営バスを使った町内観光案内ルートを作成予定。

○質疑応答

Q：ガイドは公募？町民に限定している？

A：養成講座を受講した方、または津幡検定の上級を取得した方であればガイドになれる。今現在はガイド全員町民。ガイドの中には町外（沖縄県）から移住してガイドとなった方もいる。

Q：報酬等はあるのか？

A：研修費に対する補助金、活動費や旅費の支給はあるが原則ボランティア。

Q：オンデマンドバスについて、バス停までは自分の足で向かわなければならぬと思うが、何故そのような対応にしたのか。

A：自宅までバスが出向くとなるとそれはタクシーと一緒に。町営バスのバス停以外にもオンデマンドバス用のバス停を設置、また福祉バスのバス停も活用し、２００mに一カ所、計１５０カ所のバス停で対応することとしている。

Q：運行の仕方は？

A：一台に複数名乗車してきていただき、乗客の目的地に合わせてリアルタイムに運行ルートをアプリで作成する。町民はもちろん、観光客にも利用していただければ。

(2) 津幡ブランドについて

○事業概要

津幡町の資源を活かした魅力ある町内産品のうち、特に優れたものを津幡ブランドに認定することで町内産品の付加価値を高め、地域産業の振興、活性化及び魅力の向上を図る。

○実施状況

平成27年から行っており、令和5年9月現在、食品を中心に21品目が認定。その一部はふるさと納税の返礼品としても活用されている。

○質疑応答

Q：津幡ブランドをふるさと納税の返礼品にすることで成果は？

A：やはり肉や魚介類がないと他に太刀打ちできないと感じている。ルビーロマンという品種のブドウを返礼品にしてから納税額が上がった。

(3) つばた産推奨店について

○事業概要

津幡ブランド認定品及び津幡町内産の農林水産物の流通と消費拡大、地産地消を推進するため、津幡ブランドの認定品及び町内で生産された農林水産物及びその加工品を積極的に販売、活用する店舗をつばた産推奨店として登録し、津幡町の魅力を発信する機会とするもの。

○実施状況

令和4年7月から始まっており、令和5年10月末現在で37店舗が登録されている。令和4年度につばた産推奨店をめぐるスタンプラリー（「地産地消で商品GET！つばたお店めぐりマラソン！！」）を実施、つばた産推奨店共通商品券を賞品の一部とした。今年度も同スタンプラリーを実施している。

7 視察の様子と議場での集合写真（津幡町役場）

